



北陽だより

北海道千歳北陽高等学校
P T A 総務委員会

令和2年12月25日発行
第216号

千歳市北陽2丁目10番53号
Tel : 0123-24-2819
<http://www.chitosehokuyou.hokkaido-c.ed.jp>



216号内容

- ・ 体育祭
- ・ 部活動大会結果
- ・ 学校行事の報告
- ・ 総合学科への転換について

令和4年度 千歳北陽高等学校は総合学科に生まれ変わります！



令和2年10月8日(木)・9日(金)の2日日程で、屋外競技では男子サッカー、女子ドッジボール、長縄跳び、クラス対抗リレー、屋内競技では男子バスケットボール、女子バレーボール、バドミントンの各競技を行いました。

今年度は学校祭が中止となり、3年生にとっては今年度、最初で最後の生徒会行事となってしまいました。コロナ禍での行事の運営は生徒、教員ともに初めての経験でしたが、体育館への入場制限、競技前のアルコール消毒の実施などの感染防止対策の徹底や生徒の皆さんの協力もあり、何とか無事に終わることができました。次年度は様々な制約や心配をすることなく行事を楽しめるようになることを切に願います。

令和2年度 体育祭結果 (学年順位)

1年生	1組	2組	3組	4組	2年生	1組	2組	3組	4組	5組	3年生	1組	2組	3組	4組	5組	6組
男子バスケット	3	2	4	1	男子バスケット	4	5	3	1	2	男子バスケット	3	2	1	5	4	6
女子バレー	2	3	4	1	女子バレー	5	1	4	3	2	女子バレー	2	1	4	5	3	3
サッカー	4	3	1	2	サッカー	5	1	4	2	3	サッカー	6	1	4	3	2	5
ドッジボール	4	3	2	1	ドッジボール	2	5	3	4	1	ドッジボール	2	3	5	4	1	1
バドミントン	3	4	2	1	バドミントン	3	4	2	5	1	バドミントン	3	6	4	2	1	5
長縄跳び	1	2	4	3	長縄跳び	1	3	5	2	4	長縄跳び	5	4	6	2	1	3
クラス対抗リレー	4	1	2	3	クラス対抗リレー	3	4	5	2	1	クラス対抗リレー	5	2	3	1	4	6
総 合	4	3	2	1	総 合	5	2	4	2	1	総 合	3	2	4	6	1	5

1年総合優勝

1年4組 村田 五基

1年生にとって初めての体育大会はとても良い結果で終わりました。まず、1・2週間前からチーム決めが始まり、4組は少しまとまりがなかったけど、しっかりバランスを考えて作戦を立てて当日を迎えました。

そして当日1日目の最初は、男子サッカー、女子ドッジボールでした。男女共1回戦目は勝って決勝に進むことができました。次の競技のバドミントンでも男子2組、女子2組、1回戦勝つことができました。次は長縄跳びでした。長縄跳びは練習時間が少ない中、皆で協力しました。結果は3位だったけどみんな頑張っていて良かったと思いました。

1日目最後は女子バレー、男子バスケでどちらも勝つことができました。そして2日目は全て決勝で、惜しくもサッカー・リレーは1位をとることができなかったけど、みんなの頑張りで総合優勝することができました。来年はクラスも変わって違うメンバーになるけど、それぞれ協力し合いみんなが楽しめる体育大会ができれば嬉しいです。



2年総合優勝

2年5組 杉山 優衣

「2年5組が総合優勝になりました。」まさか体育祭で自分のクラスが優勝するとは思いませんでした。私は長縄跳びしか出ていなく、これはクラスの人が頑張ってくれたおかげだと実感しました。クラスの人たちが出ている試合姿を見て、「この人凄い!」「めっちゃ面白いじゃん」と心の中でクスッと笑ったり、新たな一面を見られた気がします。

2学年となってクラス替えがあり、新型コロナウイルスの影響で中々学校へ行けなく、教室の雰囲気にも馴染めずにいた人も多々おり、その中に私もいました。北陽祭は今年はありませんでしたが、この体育祭でクラス内の友人関係は、さらに良くなったのかなと私は思います。

運動が得意な人、得意ではない人も一生懸命に頑張ろうとしていて感動しました。互いに手を取り合い協力してチームワークを発揮し、「総合優勝」という結果にたどりつき教室中には拍手と歓喜が広がりました。



3年総合優勝

3年5組 浮穴 昇人

3年5組は今年も「総合優勝」することができました。昨年度は2組と同率優勝だったため、今年は単独の総合優勝を目指していました。5組は昨年よりも人数が減り、全クラスの中でもっとも人数が少ない26人なので、複数の種目に参加しなければならない人もいます。そういう人は疲れとの戦いも重なり、大変な思いをしました。

そのような中、さまざまな競技を行いました。特に違いの差を見せつけることができたと思うのが「長縄跳び」でした。5組は昨年度も良い成績を収めましたが、今年はより多くの回数を跳ぶことができました。「担任の名前を叫びながら跳ぶ…」この作戦が功を奏したかどうかはわかりませんが、なぜかみんなの息がぴったりと合い、気持ちが一つになりました。跳び終わった後はみんなが高揚感に包まれ、とても満足することができました。中には、プレーに熱中しすぎてケガをした仲間もいましたが、その人をフォローするために、残りの種目を必死になって頑張ったのも思い出になりました。

最後に、コロナ禍という大変な時期にもかかわらず、いろいろと考えながら体育祭を開いてくれた生徒会の皆さんや先生方に感謝しています。行事のない1年になると思っていたため、この体育祭はとても良い思い出となりました。ありがとうございました。



レスリング部

レスリング全国大会に出場して

3年4組 中村 駿介

今回、私は新潟県で3月に行われる予定だった全国選抜レスリング選抜大会の代替大会に出場しました。高校に入学した当時は、自分のやりたいことや何もすることもなく高校生活を過ごすと思っていました。しかし顧問の先生にレスリング部に誘われ入部し、高校3年間で大きく変わりました。

特に心も身体も弱かった自分が先輩や顧問の先生方に支えられ、この競技をはじめて2年間で全国大会に出場する力をつけることができたことです。

今回の大会は応援してくれた家族や友人に支えられ、コロナ禍の逆風もありましたが、はじめて全国大会に出場し、結果は2回戦でテクニカルフォール負けでしたが、全国選手の技術や力の違いを目の当たりにでき、日ごろの練習をもう一度見直す必要があることが分かりました。

今後はこの経験を1・2年生に伝え、次の大会では是非個人戦と団体戦で全国大会に出場して欲しいと思います。この3年間の間レスリング競技ができたことに感謝し、自分の3年間は意味のある3年間だと感じています。

レスリング部顧問 屋敷 宗寿

新型コロナウイルスの影響で、3月に行われる予定だった全国選抜レスリング大会の代替大会が10月9日(金)から11日(日)の3日間の日程で、新潟市東総合スポーツセンターで行われ本校から3名の選手が個人戦に出場しました。今回はコロナ禍の影響で通常の練習は8月から開始し、大会に向けての準備期間が少ない中、3名の選手はそれぞれの目標と課題を持って練習に励みました。特に3年生の中村選手(55kg級)は最初で最後の全国大会であり、今年のはじめての大会が全国大会という大舞台でした。

試合結果は3選手とも2回戦敗退でしたが、試合を通して新たな目標と課題を見つける大会となりました。



花壇の整備

1年生は5月から6月にかけて、花壇整備を行いました。入学後まもなく新型コロナの騒動で、休校が相次ぎ、なかなかクラス内で友人をつくる機会がありませんでしたが、この花壇整備事業を通して、クラス内の交流が深まっていく様子がみられました。また、ボランティア精神や愛校心を育む機会にもなり、北陽高校の生徒の一員としての自覚を持ってもらえたと思います。これから頼もしく成長するための「確かな第一歩」を踏み出すことができました。



バドミントン部

「新人戦に参加して」

1年4組 米坂 百花

私は、10月に行われた秋季大会新人戦1年生の部に出場し、優勝することができました。試合は1日目に6戦行い、疲労が溜まりながらも順調に勝ち進むことができました。そして2日目、朝一番の試合で決勝戦が行われました。試合前のシャトル打ちもなく、不安も緊張もピークに達し始まった決勝戦は、自分らしいプレイをすることができなかった場面もありましたが、2-0で無事勝つことができました。

この大会で優勝できたのは、日々の部活動や毎日約3時間程度の個人練習のお陰だと思います。練習では時にはきつく、辛いこともあり立ち止まってしまうこともありましたが、しかし、決してそこで諦めず、今回の大会で見つけることができた自分の課題点を改善し、次の大会で自分の納得いく、より良いプレイができるように、明るく、ポジティブに日々努力をし、これからも練習を積み重ねていこうと思います。応援してくれた方々ありがとうございました。

バドミントン部顧問 菅野 修子

10月10日、11日の2日間にわたって、北広島西高校、札幌厚別高校を会場に「2020年度札幌支部秋季高校バドミントン大会1年生大会」が行われました。東西ブロックに分かれて開催される中、東ブロックに属している本校女子バドミントン部からは、シングルスに1年4組の米坂百花さんが出場しました。

東ブロックの女子シングルスには合計209名がエントリーしていました。その中、米坂さんは2日間で合計7試合を戦い抜き、見事優勝することができました。

コロナ禍での開催となった今大会は、エントリー選手と顧問のみの参加だったため、とても寂しい大会とはなりましたが、他校の選手たちの温かい拍手が励みになり、いずれの試合も集中力を切らすことなく戦い抜き、優勝を勝ち取ることができました。

バドミントン部はこれからオフシーズンに入りますが、日々の練習を怠ることなく、来春の大会に向けて、また改めて取り組んでいきます。今後とも米坂さんをはじめ男女バドミントン部の応援をお願いします。



PTA 研修会

10月28日(水)にPTA研修会を実施しました。新型コロナウイルスの感染拡大のため、4月実施予定のものでしたが、ようやく実施の運びとなりました。

今回は札幌大谷大学・平岡祥孝教授を講師としてお招きし、「高校の学びとキャリア形成」をテーマに講演していただきました。高校時代に身に付けるべきことを、わかりやすく、そして思わず聞き入ってしまう軽快な語り口でお話していただき、楽しく笑いを交えながらの講演となりました。

1時間という短い時間でしたが、大変充実したPTA研修会となりました。来年度も多くの保護者の方々の参加をお待ちしています。





9月19日(土)学校説明会を開催しました。千歳市内外より、中学校3年生100名とその保護者、引率の先生28名が来校しました。吹奏楽局の歓迎演奏、教務部長、総務部長による学校紹介、生徒会執行部の生徒たちによる、生徒会行事の紹介が全体会として体育館で行われました。その後8クラスに分かれて、体験授業に参加してもらいました。また希望者を対象に部活動見学を実施し、終了時刻まで熱心に参観する姿を見ることができました。アンケートの結果では、実施時期や全体会の内容について好意的な意見が多く、体験授業は楽しかったというような感想が大多数を占めていました。



2 学年
対象

「職業講話および施設見学・授業体験」について



例年、2学年対象の進路行事として「インターンシップ・キャンパス体験」を行ってきましたが、今年度は新型コロナウイルスの影響による代替行事として「職業講話および施設見学・授業体験」を行いました。

職業講話は本校で2回実施し、多くの企業や専門学校の方々に仕事の内容や求める人材など、将来に向けてのお話をいただきました。また、恵庭市にある「北海道ハイテクノロジー専門学校」を訪問し、施設見学や模擬授業を体験させていただきました。

参加生徒からは「仕事をする上で何が一番大事なのか分かった」、「残りの高校生活の中で身に付けてはいけないことがはっきりした」、「専門学校を見学・授業体験して進学したいという気持ちが強くなった」など前向きな感想が数多く寄せられ、生徒にとって有意義な時間となりました。

今後も生徒の進路意識向上を促す行事の設定や個々に対応した進路指導を行ってまいります。



令和4年

千歳北陽高校は『新たな特色ある高校』として

『総合学科』に生まれ変わります！

校長 渡 邊 祐美子

過日、北海道教育委員会は令和3年度（2021年度）～令和5年度（2023年度）の公立高等学校配置計画を決定し、本校は令和4年に、「基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着や社会的・職業的な自立に向け必要な能力や態度を育成する『新たな特色ある高校』に位置付けられ、専門教科も幅広く学習できるよう『総合学科』に転換する」ことになりました。道教委が目指す新たな千歳北陽高校は次のような特色を有する学校です。

☆「新たな特色ある高校」とは

生徒が自己の生き方を考えながら、「分かる喜び」や「学ぶ意欲」を高めるため、義務教育段階の学習内容を含めた基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るとともに、一人一人の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育む高校です。

特色

- (1) 苦手な教科やつまずいた内容も基礎から分かりやすくてできる授業
- (2) 基礎的な内容の定着を図るための30分授業
- (3) 全ての学習活動を30人以下で実施する少人数授業
- (4) グループ学習や協同的な学習の充実による探究的な学び
- (5) 学習習慣の定着のための朝の10分間学習の実施や家庭学習の充実
- (6) コミュニケーション能力を高める教育活動の充実

☆「総合学科」とは

総合学科は、普通科と専門学科にならぶ新たな学科として設けられたもので、共通教科（国語、数学、英語、体育など）から専門教科（工業、商業、福祉など）にわたって幅広く教科を開設しています。生徒は、将来の職業選択を視野に入れて自己の進路への自覚を深めながら、幅広い選択科目の中から自分で科目を選択して学ぶことができます。

特色

- ・将来の職業選択を意識しながら、自分に合った進路を先生方のアドバイスやガイダンスにより、じっくり考えながら決めることができます。
- ・学ぶことの楽しさや喜び、達成感をできるだけ体験できるよう、生徒の興味・関心等に応じた学習を重視します。
- ・総合学科で学ぶ生徒が必ず学習する科目「産業社会と人間」の中で、自分が就きたい職業や自分の生き方について深く考えることができます。

学科転換に当たっては、道立学校として道教委の方針を踏まえると同時に、これまで、千歳市、千歳市教育委員会、商工会議所、工業クラブ、観光連盟や市内の小中学校長会、PTA連合会、町内会連合会、大学、本校PTA、同窓会等に対するアンケート調査や代表者による会議等を開催し、「基礎学力の定着、社会性の育成やコミュニケーション力の向上を図るため地域の関係機関等と連携した体験的な学びを推進する学校」への転換が必要との御意見をいただいて参りました。

また、一方で、生徒の視野を広げ、進路に対する意識や学習意欲を高めるとともに、キャリア教育の活性化を図ることを目指し、恵庭市にある北海道ハイテクノロジー専門学校（以下、ハイテクノロジー専門学校と記載）と連携協定を締結しました。ハイテクノロジー専門学校にはITメディア学科や看護学科など11学科があり、本校から毎年多くの卒業生が進学していることに加え、系列の滋慶学園グループはハイテクノロジー専門学校以外に7つの専門学校を有しています。総合学科への転換を見据え、専門学校が有する教育機能（指導陣、施設設備等）の交流・連携を通じて、教育環境の充実が図られると考えております。

令和4年は、「社会に開かれた教育課程」をキーワードとする新学習指導要領（全国どの学校でも一定の水準が保てるよう、文部科学省が定めている教育課程〔カリキュラム〕の基準です。およそ10年に1度、改訂しています。教科書や時間割はこれを基に作られています。）のスタート年であり、奇しくも本校の開校50周年の節目の年でもあります。本校が千歳の子供たちや保護者に選ばれる学校になるために、学科転換を大きなチャンスとして捉え、「千歳の次代を担う人材育成」を果たせる学校への転換に向け、一層尽力して参りたいと考えています。保護者の皆様の御理解と御協力をお願い申し上げます。



北陽だより214号 北海道代表

例年、全国高等学校PTA全国大会にて、各都道府県のPTA広報誌が展示されます。今年度の島根大会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止になりましたが、北海道代表として選抜され、展示予定であった本校の北陽だより214号が、北海道高等学校PTA連合会ホームページで紹介されました。本校ホームページにも掲載していますので、是非ともご覧ください。

次回 北陽だより217号は… >>>>>>>>>>>

祝・卒業・3年間の思い出・卒業する我が子へ 令和3年3月1日発行！

